

ハスカップの歴史紹介

市美術博物館 13日から企画展

苫小牧市美術博物館は、市民に親しまれてきたハスカップの歴史などを紹介する企画展「ハスカップ―原野の恵みと描かれた風景―」を13日から開く。同館がNPOと協力して調べているハスカップと市民との関わりや、ハスカップ栽培や加工を巡る歴史的な変遷を紹介する。

ハスカップは市東部に広がる勇払原野に、かつて多く自生していたとされるが、詳細ははっきりしない。同館は、自然保護に取り組むNPO法人苫東環境コムズと協力し、過去にさかのぼってハスカップの群生状況を調べている。企画展は、湿原の低木が多い場所に生育するハスカ

ップの特性を解説。「夏には自転車がよく採りに行った」などの市民の証言やエピソード、市内の商店で菓子などに使われてきた歴史などを解説する。

ハスカップが自生していた湿原の風景を描いた苫小牧ゆかりの画家木下知子さんの油絵なども展示する。

初日の13日は午後1時からミュージアムコンサートを開催。市内のピアノ教室講師、清野直子さんが、原野をイメージした曲を演奏する。その後も、三星の元社長室長、白石幸男さんの講演会（14日午後1時半から）、ミュージアムラボ「座談会〜ハスカップを語ろう」（20日午前10時半から）がある。展示は3月13日まで。問い合わせは同館 ☎0144・35・2550へ。（田鍋里奈）



企画展「ハスカップ―原野の恵みと描かれた風景」のポスター